

キーワードから考える
ことばの学習(1)
～ことばの初期学習を中心に～

葛西ことばのテーブル
三好純太

今回のキーワード

共感

パターン

二律背反

能動性

母語

スタイル

洞察

コントラスト

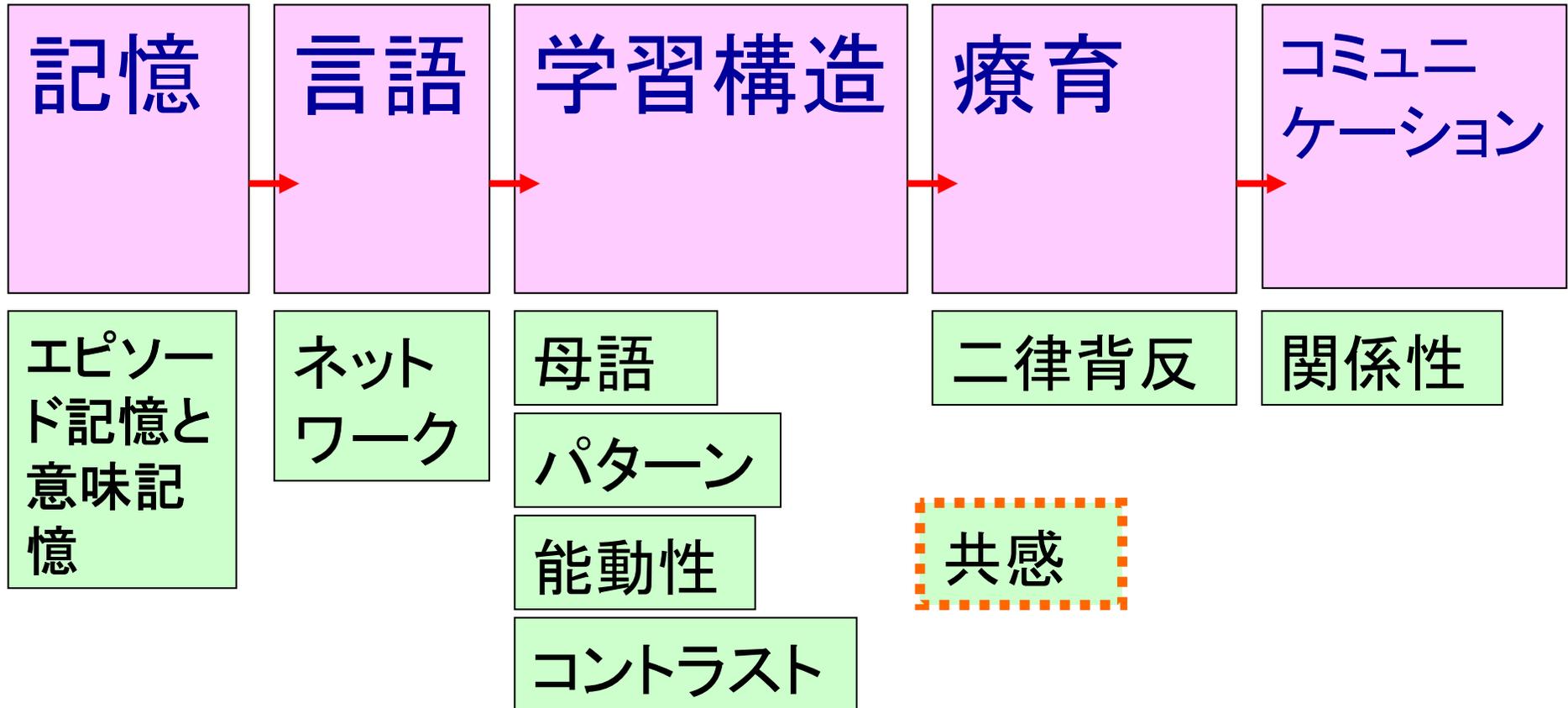
ネットワーク

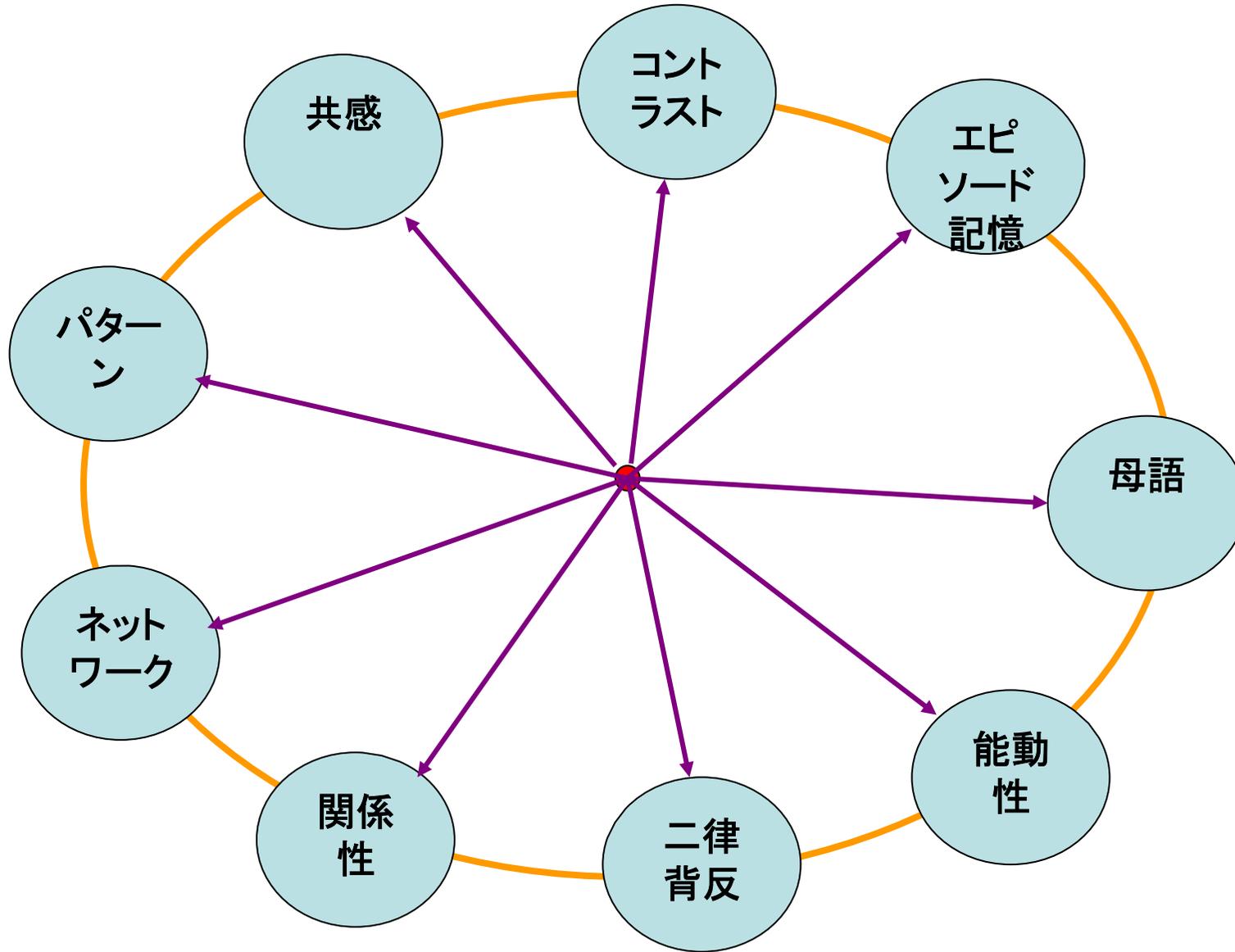
関係性

エピソード記憶と意味記憶

今日のお話の概要

はじめに





はじめに

キーワード

key word

キーワード

特別な意味を持つ重要語

* 漢語・外来語・英語が中心

文化 自由

法律 経済

意識 時間

明治時代に人工的に作られた漢語

スタッフ

ダウンロード

リフレッシュ

日本語化している
外来語

キーワードの例

化石化

fossilization

化石化

- ことばの運用や発音における誤りが固定化し、改善しにくくなること



- * 主に、外国語習得での問題として使用される

言語発達上の問題にも適応可能

- ★ 「化石化」という用語を使うことで頭がスッキリする。



漢語の力

長い状況説明を集約化(凝集性)

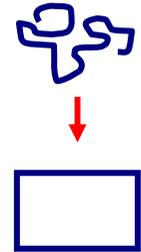
「誤りが固定化している、間違った癖がついてしまっている」

キーワードの効用

● 命名の意義

複雑なもの・曖昧なもの・抽象的なもの

→ 名前を与えて、姿を浮かびあがらせる



* 記憶を呼び起こしやすい * 知識の整理

● 内容の濃密化・複雑化

※ その言葉を会話や文の中で、名詞1語として埋めこめる

→ 次の「考え」のための道具

キーワードの留意点

★更新の必要

知識は日々、変化するもの

→ 「**仮称**」という気持ちが必要

★拡大解釈・固定観念への留意

×「便利な収納袋」や「分類による終息感」

我田引水・牽強付会にならないように

記憶

エピソード記憶 と 意味記憶

episodic memory

semantic memory

エピソード記憶

個人的体験や出来事についての記憶

「きのうは、12時まで起きていた」

意味記憶

ことばの意味やさまざまな知識

- * 赤くて丸いくだものは、「りんご」。
- * 日本で一番高い山は、富士山
- * 自分の苦手な食べ物は魚介類だ。

「朝ごはん、なにを、食べた？」

●「なっとう」: 正答

●「ピザ」: 誤答 ①願望 ②連想 ③記憶錯誤)

●「食べた」: ①オウム返し ②理解不完全

●「わすれちゃった」: 忘却

●「わかんない」: ①忘却 ②理解不完全
③言語表現が不能

●「いいたくない」: ①拒否 ②解答困難

解答できない理由（何が未熟か？）

◆ エピソードの記憶力

◆ 質問文の理解

* 時制表現の理解／時制の認識 [おひる]

* 疑問詞の理解 [なにを]

* 問いかけ文の理解 [?]

◆ 事物の呼称能力／表現レベルの判断力

◆ 注意・傾聴能力

◆ 思い出そうとする意欲（根気）

エピソード想起の誘導方法①

- まず、お盆の絵を描き、「何があった？」と聞く
- 「何があったかな」と聞きながら、指を折る
→ 枠組み(フォルダー)の利用

- 昼食時に撮った写真・昼食時に書いたメニューの紙を裏返して「何だった？」と聞く
→ 枠組みの利用／リハーサルの利用

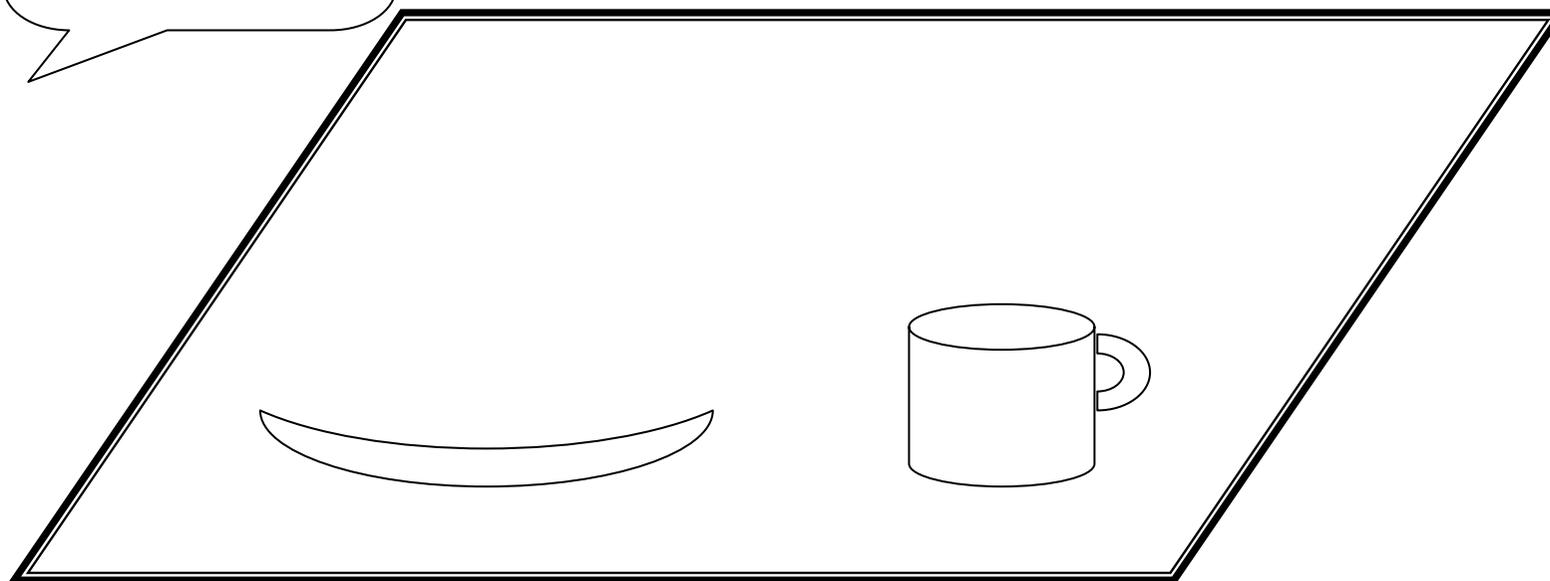
- 献立表丸暗記 → 他のルートからの暗記

エピソード想起の誘導方法②

- 食べたもののひとつを挙げ、「あとは？」と聞く
 - 食べた場所や時間などを示す
 - 「となりにには誰がいた？」「何使った？」など手がかりとなるものの想起を促す
→ 連想・状況的手がかりからの探索
-
- 料理の絵カードを示して、この中にあるか聞く
 - 料理名を挙げて、yes-noで答えてもらう
→ 再認を用いた想起

誘導の例：食事の枠

で、何が
あった？



しかし・・・

うまく行かないことも多い



記憶に関する、**基本的な能力の未熟さ**

昨日の昼ごはんの想起

手がかりを探す

- * 昨日は何曜日だったけ？
- * だれと一緒に食べに行く日だったかな？
- * 近所には、どんなお店があったっけ？
- * 最近は、自分は、何が好きだったけ？

これらはすべて「意味記憶」



意味記憶を動員して、エピソードを探索している

エピソード記憶の再生のためには

豊かな意味記憶の存在が不可欠

個人的な過去の経験であっても、その想起のためには、意味記憶(知識)が必要

知識: ①社会的知識: 値段は700円~800円

②自己に関する知識: 習慣・スケジュール

③連想: ランチ・・・ランチタイム・・・コーヒー

エピソードを語れるようになるためには

- * 自分や他者についての洞察を高める
- * 社会的知識を高める
- * 関心のある領域を広げる

エピソードの再生が上手な子がいる 要因は？

- ? 疑問詞の理解が良い／疑問詞の存在を知っている
- ? 他者の行動や行為(ex. 食事)への関心が高い
- ? 時間(もしくは時制表現)の認識が良い

しかし、何よりも重要なのは・・・

意味記憶の基礎 = ことばの世界

ことばの習得



● ことばのネットワーク化
複雑に繋がった「ことば」の網を作る

言語

ネットワーク

network

(ことばの) ネットワーク

ことばと、ことばを結ぶ関係性

ことばの学習の目的

学習の中で練習した語彙や文を
覚えることが目的ではない



日常場面での自然習得を促すメカニズムを作る

名詞習得の場合

今井むつみ・針生悦子著

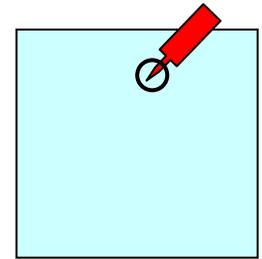
「レキシコンの構築」

レキシコン：心の中のことばの辞書

◆ 名詞の学習

マッピング

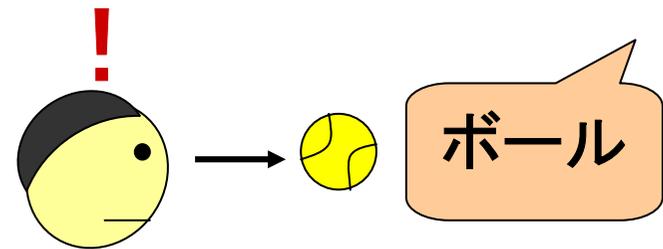
ことばと意味(事物・動き・性質・..)を対応づけること



事物名詞 = 即時マッピングされる

※ たった1回の経験で名前を学習する

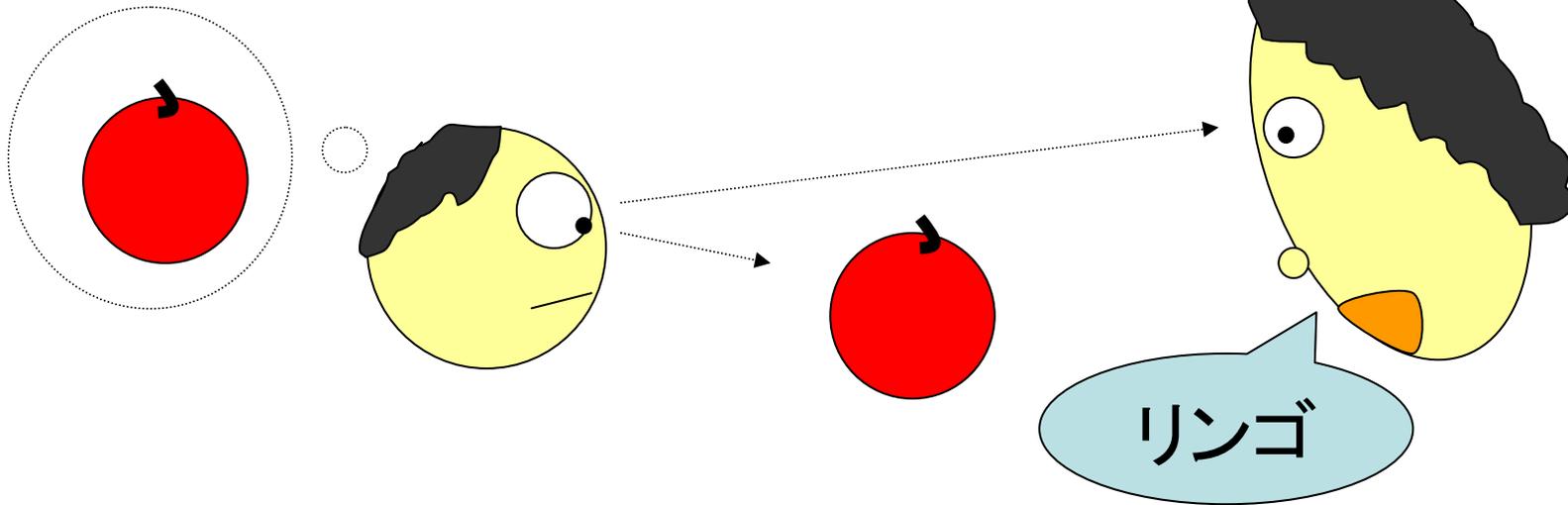
~~||~~
動詞・形容詞



◆ 名詞の学習

子どもは、モノに対して与えられたことばを、そのモノの基礎カテゴリーの概念を指すものとして把握する

例：●なら リンゴ



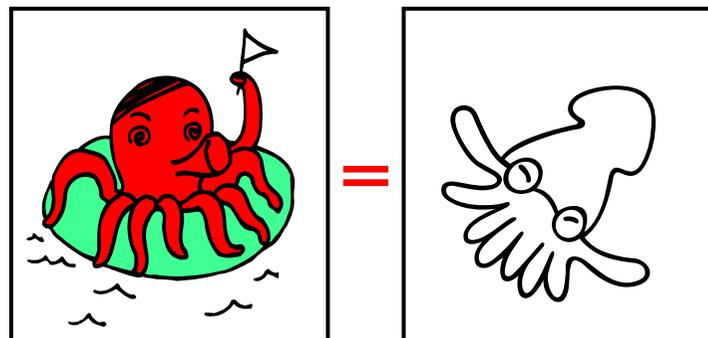
あか まるい へた



くだもの

このようなものを指しているとは思わない

名詞の習得:「イカ」の場合

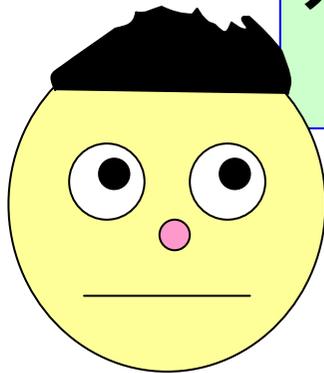


「タコ」の属性①:「イカ」習得前の知識

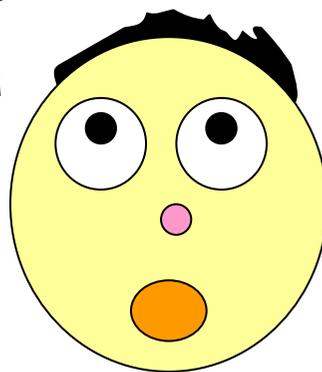
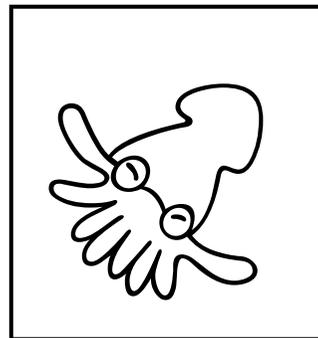
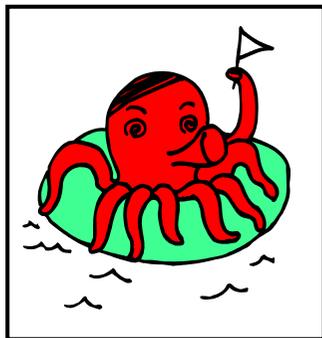
形: 頭があって足がたくさん

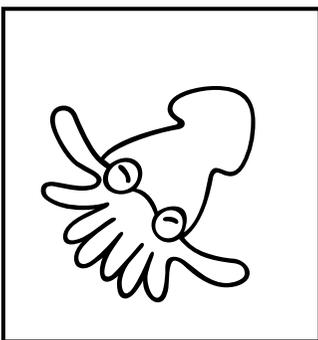
様態: グニャグニャ

カテゴリー: 海の生きもの



「イカ」の習得





これは、イカ

タコではない

タコの部分否定

タコとイカの属性の比較

タコ		イカ
形: 頭が丸い	×	形: 頭が三角
グニャグニャ	○	グニャグニャ
足が多い 足の数: 8本	○~×	足が多い 足の数: 10本
赤	×	白
海の生きもの	○	海の生きもの

タコの属性②:「イカ」習得後の変化

形: 頭があって足がたくさん

様態: グニャグニャ

カテゴリー: 海の生きもの

形(頭が○)

グニャグニャ

足の数: 8本

色: 赤

海の生きもの

イカを覚えることによって
タコの理解が精密化

「イカ」習得の意義

① 既得の語彙の精密化

「イカ」を知る → 「タコ」の概念が変化(精密化)
→ より正しい「タコ」に！

② 概念形成能力の向上

足が多い生きものにもいろいろいるんだな！

③ 上位概念の形成

「イカ」「タコ」「アジ」「ヒラメ」→【魚】【海の生物】

④ 連想の拡大

寿司の「イカ」・・・「スイカ」「カイとイカ」・・・「海と川」

「イカ」とことば全体の関係①

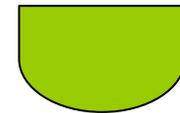
概念形成の能力向上

(おなじような形でも、いろんなものがあるんだなあ)



「ちゃわん」と「おさら」のちがいに注目

平べったいのが「おさら」で、少し深いのが「ちゃわん」



ほかのことば(概念)の精密化への応用

「イカ」とことば全体の関係②

上位概念の形成促進

「イカ」「タコ」・・・「フグ」「マンボウ」=要素増大

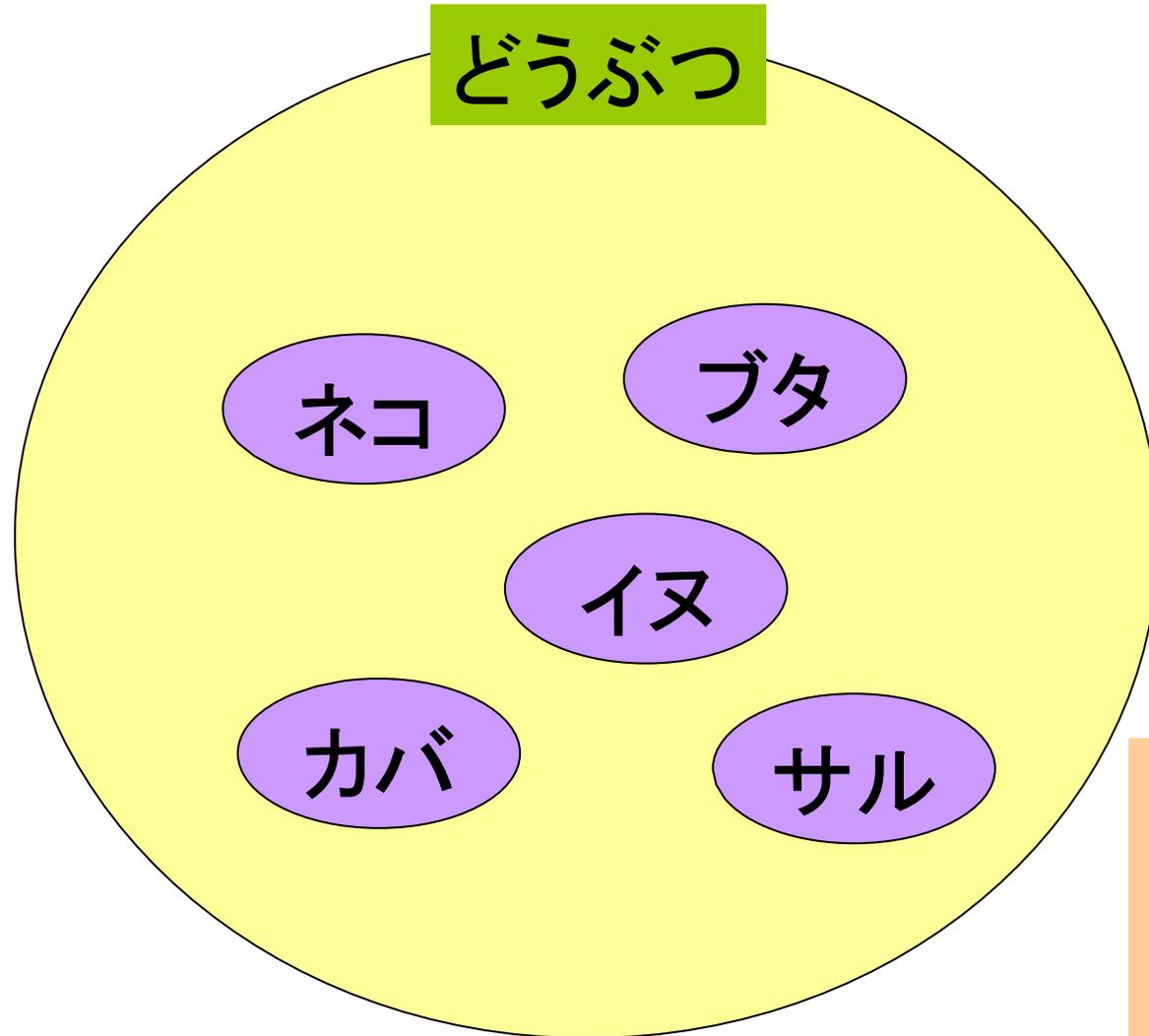
→ 共通性への注目



どれも海(水中)の生きもの

「魚」「海の生物」・・・という上位概念の形成を促進

カテゴリー概念の形成①

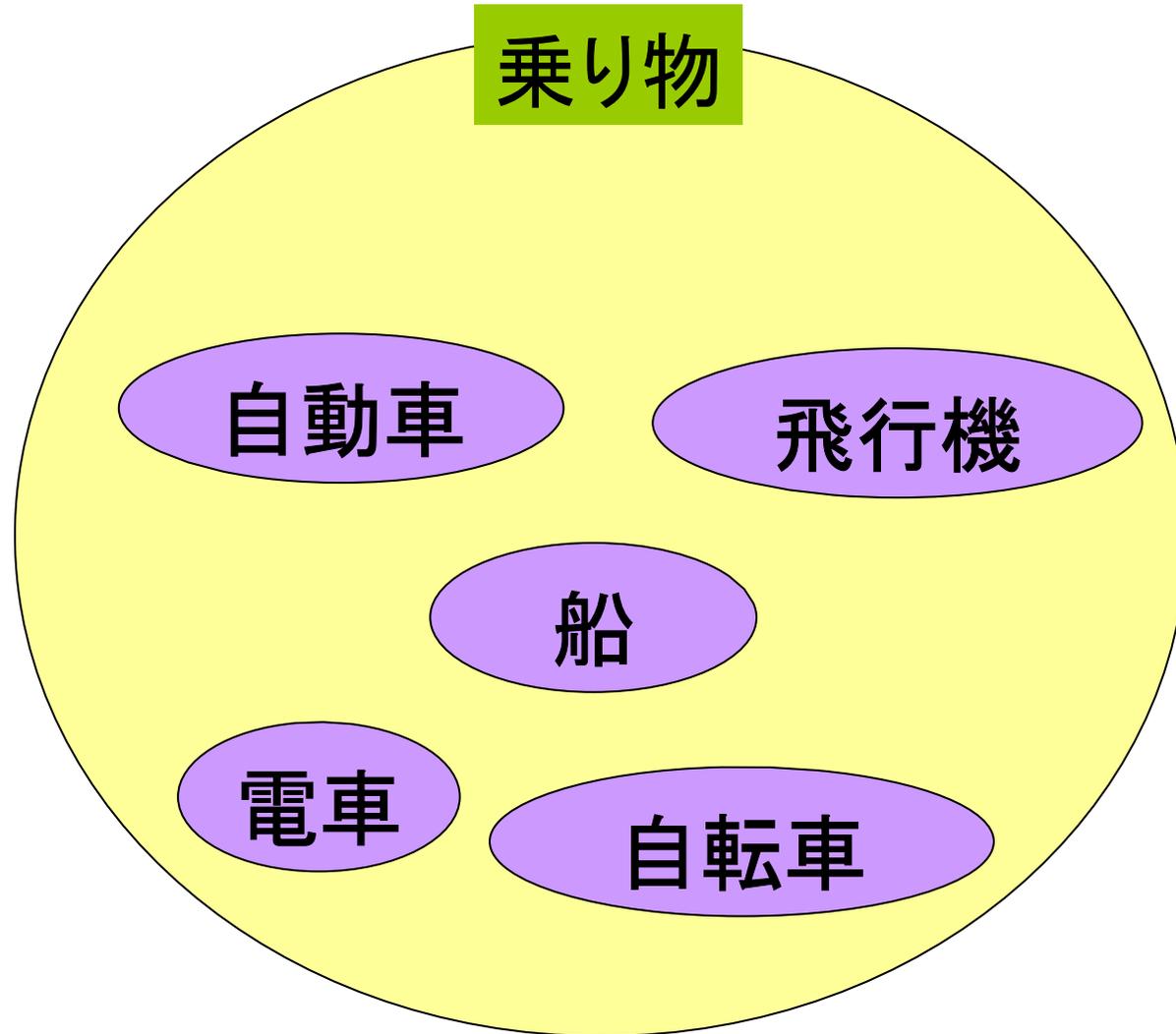


形の類似性

* 形状バイアス

こどもは、まず形で仲間わけをする

カテゴリー概念の形成②



形の類似性から



意味の
共通性へ

楽器・色

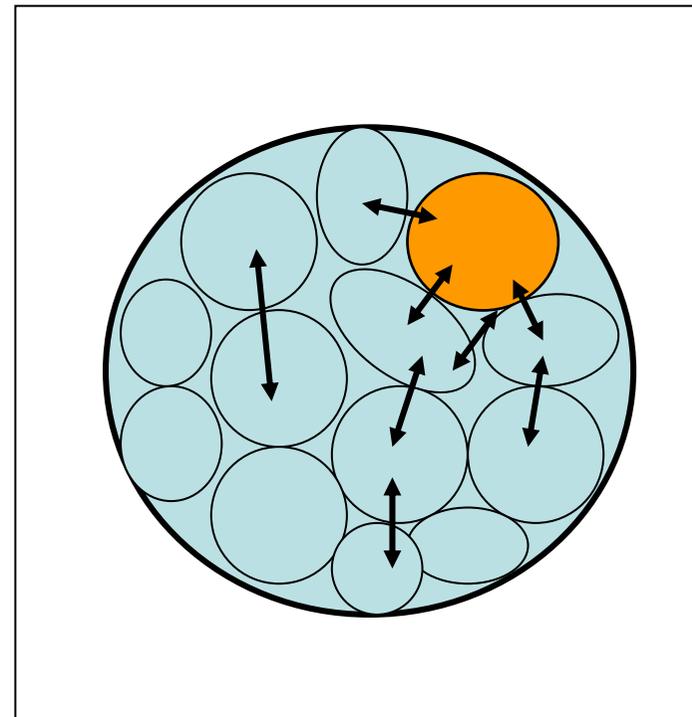
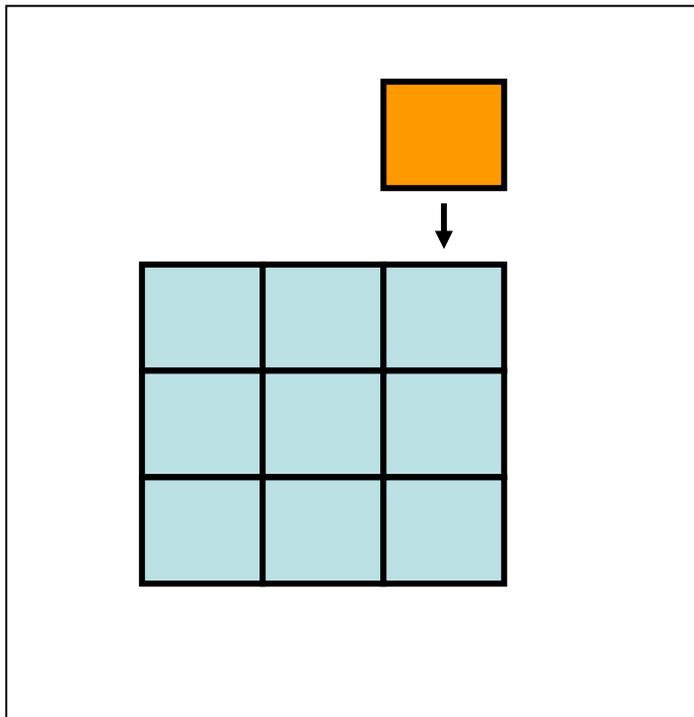
国・楽しいこと

ひとつの言葉を得ることは、
それまで作り上げてきた自分の
言葉の世界全体を塗り変える

新しいことばの習得

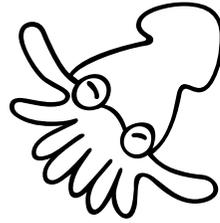
頭の中のことばの地図

(レキシコン)



+1 ではなく、地図がまったく新しく書きされる

「タコ」「イカ」関係

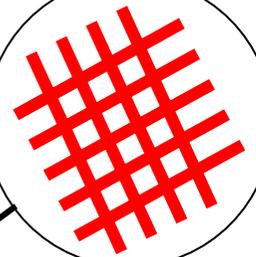


タコ

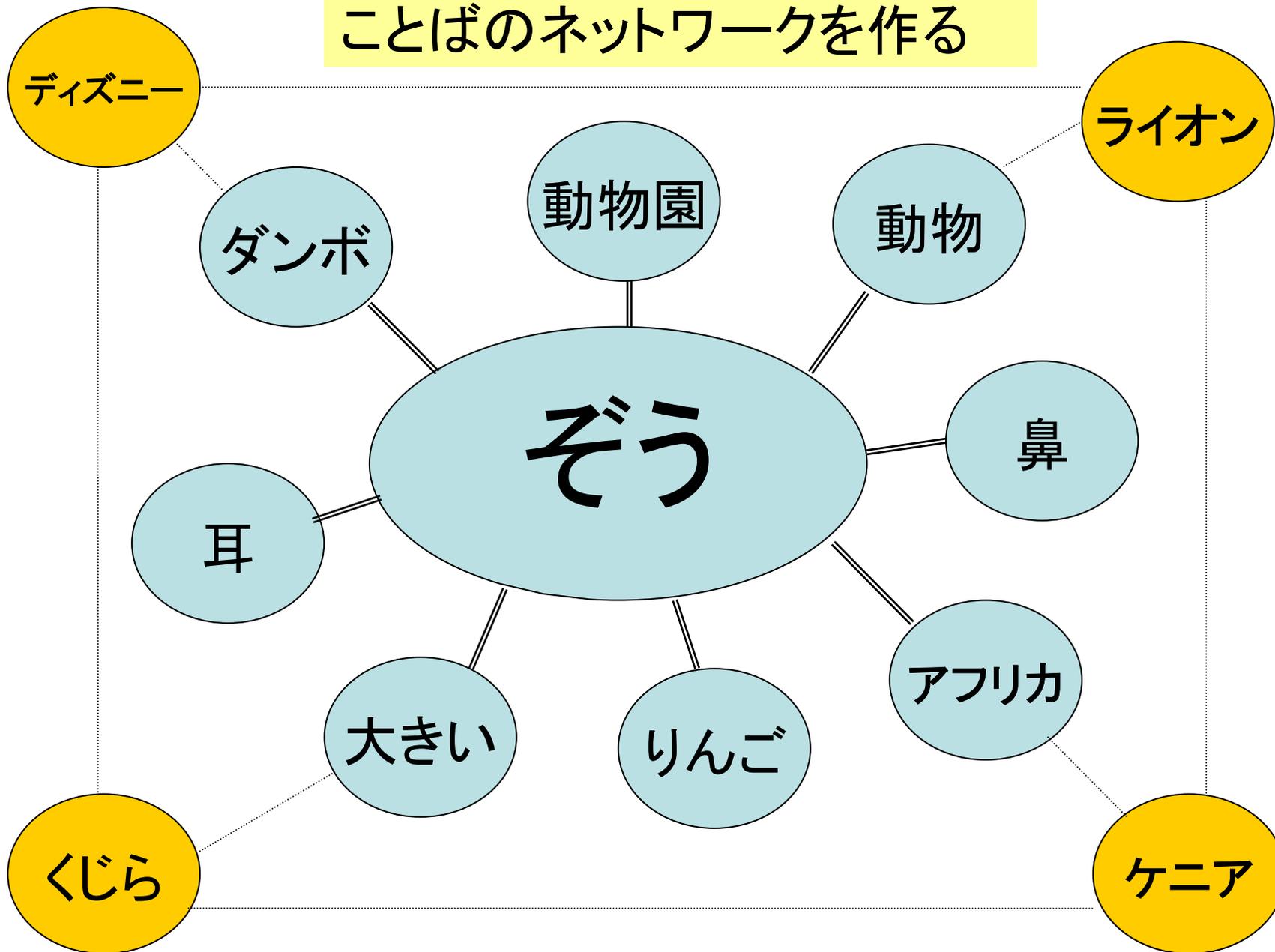
イカ

関係性の獲得

大切なのは、捕った
魚ではなく、網



ことばのネットワークを作る



ことばのネットワークを作るには・・・

◆ 日常生活の中で

- * 関連する事柄を話題化・言語化
- * 経験の蓄積
- * 架空世界に触れる(絵本・物語・・・)

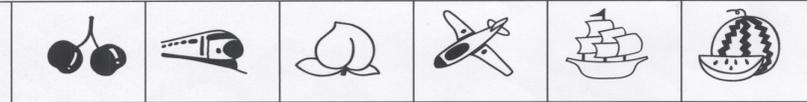
◆ ことばの学習として

- * 類推のトレーニング(共通点・相違点の抽出)
- * カテゴリー分類・名称の学習

なかまわけ課題

どっちの なかまかな？ 2



ことばのテーブル

ことばの学習の目的

学習の中で練習した語彙や文を
覚えることが目的ではない



日常場面での自然習得を促すメカニズムを作る



ことばや知識を増やす法則(メタ知識)を
獲得させる

※1を聞いて10を知る

學習構造

母語

mother tongue

母語とは

子どもが最初に習得する言語

人間は、だれでも、ことばを、**ひとつだけ**マスターする能力を持っている。



* 生後8か月で、母語以外の言語音の聞き分けができなくなる

母語は、学ぶものではない(自然習得)

⇔ 読み書きとの違い

人口的な学習で身につけることはできない



人間が言葉を覚えることは、奇跡のような作業

発達障害の子ども



自然習得が困難(外国語習得との類似性)



母語の完全なマスターは難しくても、少しでも、ことばの能力を高めていきたい



どのようなことばの学習が、良いのか？

望ましいと考えることばの学習

勉強(学習)という枠組みの中で

ことばの習得や育成を目的とした

課題や、やりとりを行う。

第2言語(外国語)習得の場合

意図的に学ばざるを得ない

→ 完全にマスターすることはできない

* 外国語学習における二つの考え方

①明示的な学習は、日常化しない
(ノン・インターフェイス・ポジション)



②少しずつ日常化する
(インターフェイス・ポジション)

明示的知識と暗示的知識

明示的知識

ことばで説明できる、ことばのルール



「何かをしている人や生き物には、『が』がつくんだ」

明示的学習

ことばで説明する、ことばの学習

暗示的知識

説明はできないが、感覚的にわかっている



こどもの日常会話

暗示的学習

生活の中で自然に進む学習

ことばの学習のタイプ

◆ことばで説明する、ことばの学習

例：何かをする人に「が」がつくんだよ

◆ことばの説明のない、ことばの学習

例：(絵をみせながら)

「お母さんが走る」と言わせる

* 計画的言語学習／パターン学習

勉強の
意識あり

◆遊びやフリートークの中での習得

* 日常生活の中での習得

* 場面設定型学習 など

勉強の
意識なし

言語指導の二律背反

ことばの学習

||
人工的な学習

||
母語は習得できない

完全にマスターすることはできない

しかし、こどもは、勉強をしている、という意識はあっても
ことばを学んでいる、という意識は、ないことが多い



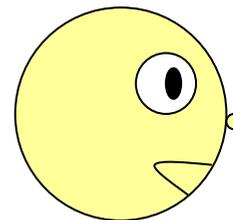
暗示的学習

生活の中でのことばの
習得に近い状況

★言語に対する構え・不安
のなさが必要

おべん
きょう！

いま、
なにし
てる？

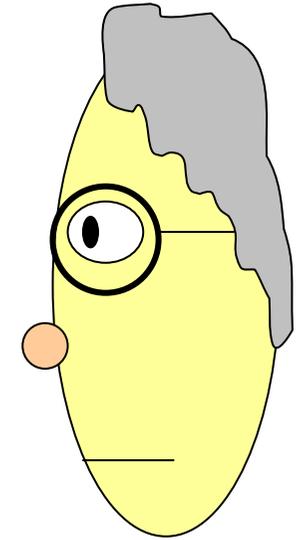


望ましいと考えることばの学習

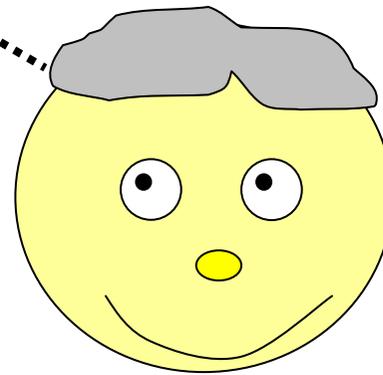
計画した学習課題や、やりとりの中で、日常生活以外の言語刺激に触れ、言語習得を促す機会とする

- * あくまで「学習」という枠組みを維持する。
- * しかし、ことばについては心理的圧迫のない状況があり、その状況の中に、言語学習のプログラムが埋め込まれている。

先生



学習者



勉強している

学習概念の形成
課題態度の形成
学習耐性の向上

ことばを覚えなきゃ・・・
ことばを間違わないよう

情意フィル
ターによる
能力の低下

ことばによ
る説明

* 学習者の一定水準以上の能力から有効